

東京2025世界陸上競技選手権大会 開催結果（概況）

1 大会概要

・主催	ワールドアスレティックス（WA）
・主管	公益財団法人日本陸上競技連盟（JAAF）
・運営組織	公益財団法人東京2025世界陸上財団
・開催期間	令和7年9月13日（土）～21日（日）【9日間】
・種目数	49種目（男子24種目、女子24種目、男女混合1種目）
・競技会場	国立競技場（マラソン、競歩は都内で実施）
・ウォームアップ会場/練習会場	代々木公園陸上競技場、東京大学陸上競技場、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
・参加国・地域	193か国・地域と難民選手団
・参加選手数	1,992名（男性1,034名、女性958名） うち日本選手団80名（男性49名、女性31名）

2 主な大会成果

・メダル獲得国数	53か国（過去最多の実績）
・競技記録	世界記録1件／大会記録9件／日本新記録4件
・日本の競技結果	入賞数11（銅メダル2名含む。歴代最多タイ）
・入場者数	61万9,288人（91年東京、07年大阪を超え国内最多）
・チケット販売枚数	約58万枚（7日間のイブニングセッションが満員）
・公式HPアクセス数	約1,300万回
・SNS掲載動画再生数	約7億回
・国内放映累計視聴人数	7,977万人
・WAより「世界陸上史上、最も広く報道され、影響力のあった大会」と評価	

3 主な都の取組等

東京都は、令和4年12月に策定した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を踏まえて、東京2025世界陸上やデフリンピックを通じて、スポーツの力によって東京の未来を切り拓いていくため、令和5年2月に、都が目指す姿を「ビジョン2025」として取りまとめた。

本ビジョンの実現に向けた取組の方向性や主な内容をまとめた方針として、令和6年1月に「ビジョン2025 アクションブック」を策定し、令和7年1月には、内容を更に充実させた「ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ」を取りまとめた。これらに基づき、大会準備段階から大会期間中まで、様々なプロジェクトを実施した。

○ 国内外への発信

<国立競技場周辺におけるイベント>

- ・ 大会期間中、国立競技場外構部のステージや都立明治公園において、アスリートによるトークショーやスポーツ体験など、大会を盛り上げるイベントを開催し、来場者は10万人を超えた。



競技場外構部 ステージイベント

<メディアツアー>

- ・ 来日中の海外メディアを対象に、神田川・環七地下調節池、アニメ東京ステーション、タカラ湯など、最新技術から歴史・文化まで東京の魅力を体験できるツアーを実施。29か国から114名の関係者が参加



タカラ湯 見学

○ 子供たちの参画

<スポーツドリル>

- ・ 大会を契機として、子供たちに陸上競技に興味を持ってもらい、スポーツを「する」きっかけを作るため、スポーツドリルを作成し、冊子を都内全小学校4～6年生に約34万部配布するとともに、HPにおいても公開



スポーツドリル

<バトンプロジェクト>

- ・ 世界陸上財団と連携し、「こどもに夢を届ける大会」としていくため、リレー競技で使用するバトンのセットを都内全小学校約1,400校に配布
- ・ バトンは、1本を展示用、残り7本を授業や運動会で使用いただくように案内



配布したバトン

<子供観戦招待>

- ・ 臨場感あふれる会場での観戦を通じて、子供たちにスポーツの素晴らしさや夢と希望を届けるため、引率者含め、都内の子供たち49,290人を招待
- ・ 被災地（岩手県、宮城県、福島県及び石川県）の子供たち、引率者含め、131人も招待



子供観戦

○ 子供たちの参画（つづき）

<見て、学んで、走りだせ！ 世界陸上リアル教室>

- ・ 大会期間中、会場である国立競技場において、都内62校（特別支援学校6校含む）2,959人の小学生に対して、アスリートによる陸上教室やトラックにおける短距離走体験などの機会を提供
- ・ 現地への参加が困難な重度障害のある子供たちが、福祉・医療施設4施設から分身ロボットを遠隔操作して会場の雰囲気を感じながらトラックを走行し、世界陸上リアル教室に参加した小学生と交流



世界陸上リアル教室



分身ロボットによる遠隔参加

<国立競技場特別スタジアムツアー>

- ・ 上記リアル教室への参加が叶わなかった都内延92校、7,109人の小学生を対象として、大会前に国立競技場における短距離走体験などを実施

<こども記者プログラム>

- ・ 中学生・高校生が記者として、日本代表選手やWA・世界陸上財団などの関係者、ワールドアスレティックス・ミュージアム（MOWA）などのイベント取材して情報発信する取組を実施



中高生によるWAへの取材

<子供の運営体験>

- ・ 世界陸上財団と連携して、メダルセレモニーにおいて、会場周辺区の中学生57名に対して、選手をステージ裏までエスコートする体験を提供



メダルセレモニーでのエスコート体験

<子供の参画に対する表彰>

- ・ WA、世界陸上財団、日本陸連との協力を通じて、次世代の子供たちを巻き込み、夢を届ける大会を創り上げたことに対して、大会期間中に、世界陸上においてはじめて、東京都がWAから表彰を受けた。



WA コー会長から知事が表彰

○ 持続可能な大会への取組

<家庭の廃食用油回収キャンペーン>

- ・ 持続可能な航空燃料S A Fの普及に向けて、アスリートアンバサダーであるやり投の北口榛花選手などの協力を得て、原料となる家庭の廃食用油回収のP Rを実施
- ・ キャンペーン期間中に、羽田ーニューヨーク間片道便相当の約11,300ℓの油を回収



廃食用油回収キャンペーン

<A i r ソーラーの活用>

- ・ 次世代型太陽電池「A i r ソーラー」を搭載した庭園灯を東京体育館周辺に設置し、照明に活用
- ・ 競技場外構部のブースで、A i r ソーラーの現物を展示



Airソーラーの庭園灯

<バイオ燃料の活用>

- ・ 国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機に、国内最大級の規模で100%バイオ燃料を使用
- ・ 練習会場等の仮設発電機や輸送車両の一部にもバイオ燃料を使用



バイオ燃料を使用した仮設発電機

<暑さ対策>

- ・ 国立競技場周辺にクーリングスポットを6か所設置し、マイボトルで利用可能なウォーターサーバーでの飲料提供や、塩タブレット等の暑さ対策グッズ配布等を実施
- ・ かぶる傘の貸出やミストクーラーによる暑さ軽減策を実施
- ・ スタートアップ事業者と連携し、ボランティア等への暑さ対策デバイスの提供等を実施
- ・ 路上競技沿道においても、クーリングスポットの設置や暑熱避難施設の開放等を実施



クーリングスポット

○ 多様な人々の参画

< ボランティアによる参画 >

- ・ ボランティアレガシーネットワークなどを活用して募集を行い、大会のボランティアとして2,858人が参加し、マラソンの給水や練習会場設営など、多彩な活動
- ・ 年齢や国籍、障害の有無にかかわらず、多様なボランティアが大会を支援



練習会場の設営

< KK線（東京高速道路）における前夜祭 >

- ・ 大会開催の気運を盛り上げるため、KK線（東京高速道路）において、1マイルレースやハーフマラソンリレー、ギネス世界記録®への挑戦など、多彩なランニング体験イベントを開催し、2,283人が参加



前夜祭の様子

4 今後の取組

- ・ 世界陸上財団において、大会運営全般を振り返る大会報告書を取りまとめ
- ・ 東京都では、世界陸上・デフリンピックでの取組や成果を取りまとめ